令和３年３月４日
教育委員会３月定例会
報告事項
学校教育部教育指導課

令和２年度横須賀市学習状況調査の結果および令和３年度同調査実施の概要について

Ⅰ　令和２年度　横須賀市立小・中学校学習状況調査の結果について

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和２年４月 16 日(木)に予定されていた国の全国学力・学習状況調査は実施しないこととなりました。そのため小学校６年生の国語及び算数、中学校３年生の国語及び数学についての調査は実施できておりません。

一方、本市独自の「横須賀市立小・中学校学習状況調査」は、当初の予定を延期し、令和２年８月 19 日(水)～８月 31 日(月)に中学校１～３年生を対象に、同年８月 19 日(水)～９月 18 日(金)に小学校３～６年生を対象に、それぞれ実施しました。

本市の学習状況調査は、本市の他に、他の自治体においても、各学年、各教科概ね 13 万人から 20 万人が参加して、同一調査問題を用いて実施されているため、本市の結果を全国の状況と比較することができます。

横須賀市では本学習状況調査について、限られた教科および学年での実施であることや、それぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことからも、調査結果が児童生徒の学力すべてを表すものではなく、学校の教育活動の一側面を示すものと考えています。

また、特に今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大きな制約の下で教育活動を行っており、本学習状況調査についても例年とは異なる時期に実施しています。そのため今年度の本学習状況調査は、昨年度以前とは大きく条件の異なる調査となりました。

しかし、本学習状況調査の結果を児童生徒の学習状況を客観的に把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のためにしっかりと役立てていきたいと考えています。

1　調査の概略

（1）調査の目的

横須賀市立小・中学校学習状況調査を実施し、横須賀市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、その調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善および児童生徒の学習に役立て、横須賀市として必要な施策の策定に資することを目的としています。

（2）調査内容

小学校３年生：①国語（聞き取り　有）　②算数
※各教科小学校２年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校４年生：①国語（聞き取り　有）　②社会　③算数　④理科
※各教科小学校３年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校５年生：①国語（聞き取り　有）　②社会　③算数　④理科
※各教科小学校４年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校６年生：①社会　②理科
※各教科小学校５年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校１年生：①国語（聞き取り　有）　②社会　③数学　④理科
※各教科小学校６年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校２年生：①国語（聞き取り　有）　②社会　③数学　④理科
⑤外国語（リスニング　有）
※各教科中学校１年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校３年生：①社会　②理科　③外国語（リスニング　有）
※各教科中学校２年生までの履修内容を出題範囲としています。

（3）公表について

・序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

2　教科別結果の見方

各学年の教科別の結果については、「教科全体」および「基礎」と「活用」の結果について、同じ問題を受検した全国の児童生徒全体の平均正答率を 100 としたときの、横須賀市の平均正答率を示しています。同じ問題を受検した全国の児童生徒数は、学年や教科によって異なりますが、概ね 13 万人から 20 万人となっています。

3　横須賀市立小学校の結果

【小学校３年生】

	国　語			算　数		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	98.9	97.6	103.5	98.9	99.7	94.1

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校３年生）

【国語】

「基礎」について内容別に見ると、「物語・説明文の内容の読み取り」は比較的良好な結果でした。

一方、「作文」が課題で、児童が自分の考えを自由に、少し長く書く経験を積み上げる指導が必要です。また、「漢字の書き取り」については、学校により正答率に差が見られ、正答率の低かった学校では、児童の実態に合った指導が必要です。

【算数】

「基礎」については全国平均とほぼ同程度ですが、「活用」については全国平均を下回っています。中でも特に、「加法の結合法則の理解」については、昨年度に引き続き課題が見られました。また、図形に関する問題では、多くが全国平均を下回っており、課題が見られました。

課題がみられた点を中心に、児童の学習の定着状況を踏まえた授業づくりを進めていくことが求められます。

【小学校４年生】

	国　語			社　会		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	93.6	91.2	101.5	95.4	96.3	93.9

	算　数			理　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	97.2	96.9	98.6	95.2	93.6	102.0

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校４年生）

【国語】

「基礎」について内容別に見ると、「話し合いの内容の聞き取り」や「物語の内容の読み取り」は比較的良好な結果でした。

一方、「作文」と「言語事項」（漢字の読み書き、主語と述語の理解等）に課題が見られました。言語事項のうち例年課題となっている「ローマ字のつづり」の理解は、少し改善が見られましたが、今後、一人一台のパソコンの導入が予定されている中で、ローマ字入力ができる力につながる指導が必要です。

【社会】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回っています。「基礎」においては、用語・記号等の理解に課題が見られました。また、「活用」については、記述問題において無解答が多い傾向が見られます。

【算数】

全体でみると全国平均を下回っていますが、個々の問題には全国平均を上回るものと、下回るものとが見られます。各校において、児童の学習の定着状況や課題点を指導者が十分に理解した上で、課題となる点の解決を図る指導が必要となります。

「数直線上に示された分数を読み取る」、「余りを切り上げて処理する問題ができ、その理由を説明する」の各問題には、昨年度に引き続き課題が見られました。

【理科】

「基礎」については、全国平均を下回る結果でしたが、「活用」においては、全国平均を上回る結果でした。「基礎」については「こん虫の育ち方」や「電気の通り道」などについての知識の理解に課題があります。「活用」については、「太陽と地面のようす」などの理解に良好な結果が見られました。

【小学校５年生】

	国　語			社　会		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	96.1	95.7	97.9	97.6	97.8	96.8

	算　数			理　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	92.1	91.8	93.5	90.2	89.9	90.3

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校５年生）

【国語】

「基礎」について内容別に見ると、「話し合いの内容の聞き取り」「物語の内容の読み取り」は比較的良好な結果でした。

一方、「言語事項」（漢字の書き取り、連用修飾語の理解等）と「作文」に課題が見られました。「漢字の書き取り」は、学校により正答率に大きな差が見られたことから、正答率が低い学校においては、指導方法の見直しや家庭学習課題の工夫等が必要です。

【社会】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回っています。「活用」では、「県の様子」の県の地形や交通の特徴について資料を読み取る問題に課題が見られました。また、記述問題において無解答が多い傾向が見られます。

【算数】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回っています。引き続き、児童の学習の定着状況や課題点等を十分に分析・把握した上での、基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着と、それらを活用する能力の育成を図る授業改善が求められます。

【理科】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果でした。「基礎」では、「月と星」の理解に課題が見られました。「活用」については、「天気のようすと気温」、「水のすがたとゆくえ」などの説明をする記述問題に課題が見られました。

【小学校６年生】

	社　会			理　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	92.4	92.4	92.5	94.1	95.6	88.8

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校６年生）

【社会】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回っています。「基礎」においては、用語・記号等の理解に課題が見られました。記述問題に無解答が多い傾向や、後半の問題になるほど無解答率が高い傾向は、今年度も依然として課題となっています。

【理科】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果でした。「基礎」では「植物の花のつくりと実」などの理解に課題が見られました。「活用」については、「物のとけ方」の問題のように、事物・現象について説明することに課題が見られました。

4　横須賀市立中学校の結果

【中学校１年生】

	国　語			社　会		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	97.5	96.0	104.1	92.0	91.7	92.9

	数　学			理　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	95.9	95.4	99.3	90.6	90.9	89.3

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（中学校１年生）

【国語】

「基礎」について内容別に見ると、「話し合いの内容の聞き取り」「説明文の内容の読み取り」は比較的良好な結果でした。本市の小学校で毎年課題となっている「作文」は、無解答率は依然高いものの全国平均を上回り、中学生になって書くコツをつかめてきた生徒が増えていることがうかがえます。

一方、「言語事項」（漢字の読み書き、熟語の成り立ちの理解等）に課題が見られ、小学校で学習した知識を改めて丁寧に指導することが必要です。

【社会】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回っています。特に、「我が国の歴史」、「我が国の政治」についての問題に課題が見られました。また、記述問題において無解答が多い傾向が見られます。

【数学】

「活用」については全国平均とほぼ同程度ですが、「基礎」について課題が見られました。中でも、「底面積と高さから角柱の体積を求める」や、「道のりと時間から速さを求める計算について理解し、単位をそろえて計算できていないことを指摘する」、「比の考えを利用して、全体から一部の量を求める」など、中学校１年生での学習につながる基礎的・基本的な事項に関する問題の一部で課題が見られます。生徒の既習事項の定着状況を分析した上での授業展開を目指していくことが求められます。

【理科】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果でした。「基礎」では、「月と太陽」の月の見え方の問題などに課題がみられました。「活用」では「水よう液の性質」の実験について説明することや結果から考察する問題については、課題が見られる結果でした。

【中学校２年生】

	国語			社会			数学		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	98.8	98.9	98.4	95.0	94.6	97.1	98.9	99.7	93.9

	理科			外国語		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	90.6	91.1	89.5	105.1	103.6	107.8

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（中学校２年生）

【国語】

全国平均にはわずかに届かなかったものの、全市的に大きく課題のある指導事項はなく、これまでの指導の積み重ねの成果といえます。あえて取り上げるなら、「説明文の構成や展開を捉える」問題の正答率が低く、今後、説明文の指導においては、内容の読み取りだけでなく、その説明の仕方にも注目させるような指導が必要です。

各学校では正答率の低かった問題を分析し、指導の改善に役立てることが必要です。

【社会】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回っています。「基礎」においては、歴史的分野における用語等の理解に課題が見られました。また「活用」については、記述問題において無解答が多い傾向が見られます。

【数学】

「基礎」については全国平均とほぼ同程度ですが、「活用」に課題が見られました。特に「数量関係を式に表し、その関係が反比例であることを指摘する」、「示された模様が図形を回転移動させてつくったものであることを読み取り、移動の方法を説明する」などの問題に、課題が見られました。生徒の学習の定着状況や課題点等を十分に分析・把握した上で、基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着とともに、それらを活用する能力の育成を図る指導改善が求められます。

【理科】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果でした。「基礎」においては「水溶液の性質」、「力と圧力」での理解に課題が見られました。「活用」においては、「地層」についての説明することや科学的に思考することに課題が見られました。

【外国語】

「基礎」「活用」ともに全国平均を上回り確実な力がついてきていることがうかがえます。

「書くこと」については、日常生活でも用いるような使用頻度の高い単語を書く問題で無解答率が高くなっています。また、一部の文構造について正しい語順を理解することについて課題が見られます。

【中学校３年生】

	社会			理科			外国語		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	102.9	103.1	102.2	91.3	92.8	85.1	99.2	98.4	101.2

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（中学校３年生）

【社会】
「基礎」「活用」ともに全国平均を上回っており、概ね良好な結果でした。「活用」の記述問題で、無解答率が高くなるなどの課題が見られました。

【理科】
「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果でした。「基礎」においては「生物と細胞」の多細胞生物の体のつくりに関する問題や、「動物の分類と生物の進化」の相同器官の問題に課題が見られました。「活用」については、「大気中の水蒸気の変化」などの記述問題に課題が見られました。

【外国語】
「基礎」については全国平均を下回りました。
「聞くこと」の助動詞を使用した表現の状況把握に一部課題が見られます。また「書くこと」に関して、一部の文構造について正しい語順を理解することについて課題が見られます。

5　調査結果と今後の取組について

（1）教科ごとの結果について

学年・教科によって傾向は異なりますが、本市の児童生徒全体の平均正答率は、全国の児童生徒全体の平均正答率を下回るものがほとんどです。しかしながら、その差が５ポイント以内であるものも多くあり、それらについては全国の平均正答率とほぼ同程度と捉えることができます。

各学年・教科の課題については結果とともにお示ししています。学年によっても異なりますが、各教科次のような内容に課題が見られる傾向にあります。

国語	作文や、漢字の読み書きに関するもの
社会	用語・記号等の理解や、資料を基に考え表現すること
算数・数学	図形や、関数に関するもの
理科	天体や、化学に関するもの
外国語	書くことに関するもの

また、理科においては全ての学年で課題が見られます。これまでの調査に引き続き、小学校における「昆虫の育ち方」や「月と太陽」などの知識の定着や、中学校における「水溶液の性質」「力と圧力」「大気中の水蒸気の変化」などで考えることや説明することに課題があることが明らかになっていますので、今後は授業改善をしていきたいと考えています。

（2）質問紙調査の結果について

質問紙調査の結果については、本市全体の結果は、全国の児童生徒全体とほぼ同じ傾向が見られますが、本市独自の傾向が見られる項目があります。

①「学習習慣」に関する項目について

「家で、週に何日くらい勉強しますか」に対して「ほぼ毎日」「４～５日」と回答する割合や、「１日の勉強時間はこれくらいと、めやすを決めていますか」に対して「決めている」「だいたい」と回答する割合が、全国と比較して低く、この傾向は昨年度までにも見られています。

児童生徒にとって与えられる課題ばかりでなく、児童生徒が自ら調べ、自ら考えるような、主体的に取り組める課題を意図的に設定することを、今後研究していきたいと考えています。

②「いじめの有無とその兆候」をみとる項目について

「クラスや部活で、冷やかされたり、からかわれたり、いやなことをしつこく言われたりすることがありますか」「自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、不安を感じることがありますか」など、

いじめの有無とその兆候をみとる項目がいくつかありますが、「一度もない」などの回答が、調査したすべての学年で前年度よりも増加しました。各校におけるいじめに関する指導が浸透しつつあるものと捉えられます。

③ 「学級の規範意識」をみとる項目について

「あなたのクラスでは、みんながそうじ当番や係の仕事を、責任をもってしていますか」「あなたのクラスでは、みんなが先生の言うことを守っていますか」「クラスの人がふざけたり、おしゃべりをしたりして、授業に集中できないことがありますか」などの設問については、それぞれ「みんなできちんとやっている」「みんながきちんと守っている」「一度もない」などの回答が、例年においても全国と比較して多いところですが、特に中学校において、前年度よりもさらに増加しました。多くの学級で落ち着いた学習環境を保障することができているものと捉えられます。

なお、「対人ストレス」「家族のささえ」「友だちのささえ」「先生のささえ」に関する項目については、前年度までの結果との大きな差は見られませんでした。3か月に及ぶ休校とそれに続く分散登校、外出自粛などにより、対人関係にストレスを感じたり、家族・友だち・先生との関係に不安を抱えたりする児童生徒の増加をここからみとることはできませんが、引き続き児童生徒の言動に目を向け、心のサインに気づき、それに応じた適切な支援を行う必要があります。

（3）今後の取組について

市内各学校においては、教科調査、質問紙調査ともに、自校の調査結果を分析し、成果と課題を明らかにしています。全体的な傾向だけではなく、より詳細な分析を行い、指導改善につなげていく取組を行っています。

今後もこうした取組を継続しつつ、学力向上に向けて多角的な視点を持ち、学校と家庭、教育委員会が連携し、本年度の学習状況の課題を解決するべく取組を推進していきます。

Ⅱ　令和３年度　横須賀市立小・中学校学習状況調査実施の概要について

１　調査目的

横須賀市立小・中学校学習状況調査を実施し、横須賀市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善及び児童生徒の学習に役立て、横須賀市として必要な施策の策定に資する。

２　調査の対象及び内容

(1) 調査対象

市立小学校の２・３・４・５年生及び市立中学校の１・２年生とする。

※市立特別支援学校の該当学年に在籍する児童生徒のうち、調査することが適当であると判断される児童生徒を含む。

(2) 調査内容

小学校（２年生・３年生・４年生及び５年生）

教科調査国語：40 分〔聞き取り調査を含む。〕

算数：40 分

質問紙調査　：30 分程度

中学校（１年生及び２年生）

教科調査国語：45 分〔聞き取り調査を含む。〕

数学：45 分

質問紙調査　：30 分程度

(3) 各教科の調査の範囲

各学年とも前学年で履修する学習内容を中心とした範囲とする。中学校１年生は、小学校第６学年で履修する学習内容を中心とした範囲とする。

３　調査の実施

学校長は、次の事項及び後日送付する「令和３年度横須賀市立小・中学校学習状況調査　実施の手引き」に基づき実施する。

(1) 実施計画の作成

学校長は、各学校の実態を踏まえ、市学習状況調査を適切に行うよう実施計画を作成する。

(2) 実施期日

教科調査の実施期間は、令和３年(2021 年) ４月 12 日(月)から４月 21 日(水)までとする。

質問紙調査の実施期間は、令和３年(2021 年) ５月６日(木)から６月１日(火)までとする。

(3) 配慮を要する児童生徒への対応

配慮を要する児童生徒への対応については、別紙１「配慮を要する児童生徒への対応について」による。

4　採点・集計に係る事務

調査終了後の採点・集計に係る事務については、業者に委託するものとする。業者への送付方法等の詳しい対応については、後日送付する「令和３年度横須賀市立小・中学校学習状況調査　実施の手引き」による。

5　調査結果の活用

市教育委員会は、調査結果のデータをもとに、横須賀市の児童生徒の学習状況を分析し、学力の傾向、指導方法の改善点等について提案する。各学校においては、それをもとにしながら、自校の児童生徒の学習状況を分析し、指導方法の工夫・改善、学校運営の改善等に生かし、児童生徒の学力向上につなげる。

6　調査結果の取扱いについて

調査の目的が適正に果たされるよう、調査結果に係る情報については、後日送付する「令和３年度横須賀市立小・中学校学習状況調査　実施の手引き」により扱う。

7　その他

その他、必要な事項については、教育指導課において別途協議し、決定する。

別紙１

配慮を要する児童生徒への対応について

「横須賀市立小・中学校学習状況調査」（以下「市学習状況調査」という）に係る『配慮を必要とする児童生徒への対応について』は、次の基本方針に基づき対応する。

１　基本方針

(1) 基本的な考え方

市学習状況調査の実施にあたり、配慮を要する児童生徒へは、**各学校における授業やテスト等の際に行われている内容に基づき**、可能な範囲で対応する。

(2) 市教育委員会が対応する内容

市教育委員会は、配慮を要する児童生徒への対応として、「総ルビ問題用紙」を用意する。

(3) 各学校が対応する内容

各学校においては、学校で行っているテスト等の際に対応されている内容を十分に考慮し、会場、実施方法、監督体制、調査時間等、適切に市学習状況調査が実施できるように計画する。

なお、調査時間については、最長 20 分まで延長することができる。

２　具体的な対応について

(1) 市教育委員会の対応

①総ルビ問題の配布について

・総ルビ問題用紙（すべての漢字に**ふりがな**がふってある問題用紙）が必要な学校は、教育指導課に申請する。

②対応が難しい内容

・児童生徒が理解できる外国語に訳した市学習状況調査問題用紙の配布。
・児童生徒が理解できる外国語の話せる人の配置。
・活字をゴシック体にした市学習状況調査問題用紙の配布。

(2) 各学校の対応（日常対応していること）

・時間の延長。
・体調不良等による別室での調査実施。
・日本語の意味を調べるための外国語辞書の使用。
・語句の意味の質問や簡単な説明。（内容にふれたり、指示を与えたりすることにならないもの。）
・大きさを拡大した市学習状況調査問題用紙（総ルビ問題用紙を拡大する場合も含む）の配布。
・その他、関係機関との連携によって対応している場合。